

6/15 火曜日

# 感染症危機管理庁新設へ

## 首相直轄 コロナ司令塔

新型コロナウイルス感染症など対応する司令塔機能を強化するため、政府は「感染症危機管理庁」を内閣直属に新設する方針を固めた。岸田文雄首相が15日、記者会見で説明する。

### 研究拠点も統合

「コロナ対応緊急事態宣言を扱う内閣官房の「対

制、保健所支援など個別のチームを扱う厚生労働省の「対策推進本部」の二つの組織がある。複数の関係者によると、これらを直相続で「元気」数人規模

の職員を抱處かねる。関係省庁とも担当者を置き、緊急時に協力する。

国立感染症研究所と国立国際医療研究センターも統合し、新たな専門家組織を作り。研究の成果を迅速に治療法の開発につなげると、危機対応を強化する狙いがある。

また、病床確保の機能を強化するため、感染症法を改正する。都道府県が事前に医療機関と病床確保の協定を結ぶ。法的は強制力をもたせぬ」とも検討する。今秋の臨時国会での法案提出をめざす。

既報紙は医療機関に「お問い合わせ」を受けた。多くは延滞止等車両運送などの際は、事業者や個人への実効性を上げる方法を検討する。

また、新型コロナ対策を

検討したこの政府の有識者会議が15日に公表する報告書の概要もわかった。最近生かせなかつたと指摘。課題として、医療提供体制や保険制度、検査の強化、ワクチンなどの開発の促進、組織の整備や専門家組織の強化などを求めている。

年上施行した新型インフルエンザ対応の経験を十分に活用して、次の感染症の流行に備え、一元的に感染対策を指揮する司令塔

体制へと時間がかかったことなどを踏まえ、2009年からなとの開発の促進、